

【 演習B 】

想定場面での対応②

演習A及びBの進め方

1. 演習A、Bではロールプレイを行う

- ロールプレイをするために、班内でさらに小グループに分かれるが、参加者が必ず、3つの役割すべてを経験できるように、グループの編成は6人か7人に設定するのが望ましい

◆7人の班 3人組と4人組に分かれる

◆6人の班 3人組が2つ

演習A及びBの進め方

2. ロールプレイの流れは以下のとおり

- ロールプレイに1回の時間の長さは、目安なので研修全体の時間枠に余裕があれば調整してかまわない
- 運営する講師がタイムキーパーをして、「始め、やめ」の合図に合わせて、すべてのグループが同時にロールプレイできるように進める
- PPTの資料の解説部分は受講者には事前に配布せず全体のまとめの時に活用する
- ロールプレイ終了後、大きな班にもどり、互いの所感を話し合う
- 講師が全体のまとめをする前に、2～3班くらいから発表してもらう

演習B：想定場面での対応

1. 3つの役割を決める
2. 利用者役、支援者役は指定された想定場面についてのロールプレイを行う。
3. 終了後、3役ともそれぞれの立場から感想を述べる
4. 役割をチェンジして行う。3つの役割すべてを行う

3人の場合

	1回目	2回目	3回目
A	支援者	利用者	観察者
B	利用者	観察者	支援者
C	観察者	支援者	利用者

4人の場合

		1回目	2回目	3回目
Aチーム	A	支援者	利用者	観察者 Bチームを 観察
	B	利用者	支援者	
Bチーム	C	観察者 Aチームを 観察	支援者	利用者
	D		利用者	支援者

演習の上での注意

- 事例では「Hさん」だが、受講者本人の名前に置き換えて行う
- 観察役はロールプレイの中に入り込まず、脇で静かに様子を観察する
(脇でうなずいたり、笑ったりの反応をして2人の気を散らさない)
- 観察役も重要。日頃の実践で自分を客観視する視点を理解する

養護老人ホームに入居したHさん・・・場面1

Hさんは70代の男性、統合失調症です。

30代までは路上生活をしていましたが、石や金属などを異食したことをきっかけに、救命救急で治療を受けた後、精神科病院へ転院し、その後はそのまま30年近く入院をしていました。

ホーム入居前の病院での生活は開放病棟で、対人トラブルはありませんでしたが、むしろ他の人と交流することは少なく、一人で書き物をしたり、“体力作り”のために廊下を歩いたりしていることが多かったです。

精神科のお薬の副作用で便秘をしやすい体質です。

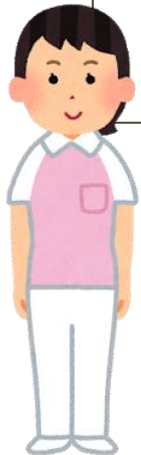
独特のこだわり(妄想)はあっても、お薬を飲んでいるので病院では長年穏やかに過ごせていました。



場面1：数日前に

他の入居者から「Hさんが、洗濯場でズボンを脱いでいる」という情報がありました。

今日は「下半身裸で、屋上の洗濯場へと階段を上がっている人がある」との報告があり、確認に向かうと、興奮した様子のHさんが、そこにいました。手には便で汚れたパンツとズボンを持っています。少し下痢をしているようです。「どうして下半身裸なのですか？」と尋ねると、Hさんは「尻がおかしいから」「石をのむと(お腹の調子が)良くなるんだよ」と、大きな声で落ち着きなく訴えてきました。



演習Bのまとめ

態度としては・・・

- ☐ 状況に慌てることなく、話に耳を傾ける
- ☐ 説得するのではなく、本当は何に困っているのかを知る

突拍子の無い話でも、まずはしっかりと聞く・・・・・・・・・・傾聴
「体調が悪いのですね」「お腹の具合が心配なのですね」・・・共感



「石を飲むなんて変なことを言わないで！」・・・・否定
「いいから早くパンツをはきましょう」・・・・説得
「話は後にして汚れた服を片付けましょう」・・・・話をそらす

演習Bのまとめ

行動としては・・・

- まわりからは訳の分からない行動も、本人なりの理由があって行っているもの。「本当に困っていること」をうまく表現できずにいたり、独特のこだわりがあることを理解する
- 精神科薬を長期に服用していると薬の副作用で便秘になる人は多いです。その副作用を調整するために、下剤を常用することがあるので、医師とも相談をしてみましょう

「汚れ物を洗いたくて、下を全部脱いだんですね。一人で片づけるのは大変でしょう」

「お腹の調子が悪いのは心配ですね。良くなるようにご相談に乗って力になりますから、安心してください」

本人なりのやり方で解決しようとしていたことをねぎらいながら、周囲の人は味方になってくれて、力を貸してくれるのだ、という安心を届ける